

20200123_農業ビジネス研究会_議事録

日 時：2020年1月23日（木）19:00-21:00

場 所：東京/池袋「バー クオーレ」

テーマ：千葉の農家さん応援企画！

旬で鮮度の良い野菜への熱い思いと料理の仕方を聴きながら、美味しく食べる

発表者：熱田伸也さん（千葉県匝瑳市「熱田農園」代表）

山木幸介さん（千葉県山武市「三つ豆ファーム」代表）

参加者：18人

（NPO 法人理事長、農家、会社経営、会社員、コンサルタント、公務員、
行政書士、司法書士など）

対談メモ：

三つ豆ファームの山木さんは、山武市にて、野菜を少量多品目で生産しており、お客様と野菜ボックスの直接取引をしております。熱田農園の熱田さんは、匝瑳市にて、お米と野菜を有機で生産しています。お味噌やお餅などの加工、販売もされています。山木さんは、台風15号にて風水害の直撃に遭いました。秋冬の野菜はほぼ全滅しました。ただし、多品目の生産のメリットで落花生は大丈夫でした。宅配便も集荷に来ることができなくなってしまいました。そもそも停電したので、連絡もできませんでした。



その後も、集中豪雨が続いています。地下水も一杯の状態です。日照も少ないです。春まで影響が続きそうです。心情として、「台風15号の直撃に、心が萎えました。畑を見たくもありませんでした。しかし、友だちが復旧の手伝いに来てくれました。だから、再開ができました」と語ってくれました。また、お客さんに助けられました。風水害の影響の少ない、いもの出荷はできました。野菜ボックスの中身は、いもばかりの出荷になりますが、お客さんは理解してくれました。熱田さんのところも、ほぼ全滅しましたが、いんげんは残りました。台風15号は、9月上旬でした。正直、油断していました。結局、すじかいを入れるとかしか対応策はありません。こちらも宅配便の集荷は来ませんでした。出荷のしようがないと考えていたところ、野菜を直接取りに来るお客さんがいました。

最後に、山木さんからは、「多品目生産は、今回のように転んでも立ち上がることができます。小さくても強い経営を目指しています。また、地元の消防団に参加しています。地元のつながりもまたセーフティネットになっています」と、熱田さんからは、「地元の協力を得られるようにしておくことは大切ですね。台風や集中豪雨への対応は品種の対応だけでなく、人のつながりです」と語ってくれました。

農業もまた、電気、流通がないと経営が成り立ちません。そのような時に、お客さんなど人のつながりがセーフティネットになることがわかりました。

以上